

令和5年度 事務事業評価表 (令和4年度実績)

事務事業名		固定資産評価審査委員会費			担当所属	法務コンプライアンス課		
基本情報	分野	9 都市経営	事業期間	～ 永年				
	基本施策	2 適正かつ透明な行政運営の推進	会計種別					
	推進施策	6 その他	実施計画		総合戦略			
事業概要	対象	固定資産税の納税者						
	意図	中立的な機関として慎重な審査を行い、納税者の信頼を得る。						
	成果	中立的、専門的な第三者機関として、納税義務者からの審査申出に対し審査決定することにより、適正公平な税務行政が推進できる。						
	手段	固定資産課税台帳に登録された価格に対する不服を審査し、決定する。						
指標	活動指標	指標名		単位	R2年度実績	R3年度実績	R4年度実績	R5年度見込
		申請に対する決定率	目標値	%	100	100	100	100
			実績値	%	100	100	100	-
			目標達成度	%	100.0	100.0	100.0	-
コスト	(単位：千円)		平成31年度 決算	令和2年度 決算	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 予算	
	トータルコスト		1,815	1,073	1,196	1,087	805	
	事業費		0	0	131	6	84	
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		地方債	0	0	0	0	0	
		受益者負担	0	0	0	0	0	
		その他	0	0	0	0	0	
	一般財源		0	0	131	6	84	
	人件費合計		1,815	1,073	1,065	1,081	721	
正職員		1,815	1,073	1,065	1,081	721		
正職員以外		0	0	0	0	0		
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)		
人員	正職員 (人)	0.25	0.15	0.15	0.15	0.10		
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		
環境変化等	開始時の周辺環境							
	基本的に、3年度ごとの固定資産評価替えの年(基準年度)に審査申出が出される。							
	現状の周辺環境							
今後の予想される周辺環境								
評価	評価項目		評価	評価の理由				
	受目的性	1. 市の関与(税支支出)	A	中立的な機関として審査を行い、納税者の信頼の確保を図る事業であり妥当である。				
		2. 事務事業の目的(対象・意図)	A					
		3. 事務事業の目標(活動指標等)	A					
	有効性	4. 計画の実施状況	A	中立的、専門的な第三者機関として審査を行い、納税者の信頼の確保を図る。				
		5. 目標(活動指標等)の達成度	A					
		6. 上位施策への貢献度	A					
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み	A					
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み	A	中立的な機関として審査を行うことで、納税者からの信頼を確保し、適正公正な税務行政の推進を図っていく。				
		9. 類似事業との統合・代替の検討	A					
10. これまでの実施手段		A						
総合評価	A	地方税法により設置が義務付けられており、中立的、専門的な第三者機関として固定資産の評価額等を審査し、納税者の信頼を確保する。						
改革案	今後の実施方向性	維持						
	成果方向性	成果維持						
	コスト方向性	コスト維持						
	改革効果(どのような効果が期待できるか)							

令和5年度 事務事業評価表 (令和4年度実績)

事務事業名		行政安全対策事業費			担当所属	法務コンプライアンス課			
基本情報	分野	9 都市経営		事業期間	～				
	基本施策	2 適正かつ透明な行政運営の推進		会計種別					
	推進施策	6 その他		実施計画		総合戦略			
事業概要	対象	職員							
	意図	不当要求行為等に対する対応を円滑に行い、業務に支障をきたさないようにする。							
	成果	不当要求行為等への早期の適切な対応により、職員の負担軽減が図られ業務の効率化に繋がる。							
	手段	不当要求事例についての主管課からの相談・協議に対し、一定の方向性を定めることにより問題解決に向けた連携・協力を行う。							
指標	活動指標	指標名		単位	R2年度実績	R3年度実績	R4年度実績	R5年度見込	
		相談に対する実施率		目標値	%	100	100	100	100
				実績値	%	100	100	100	-
				目標達成度	%	100.0	100.0	100.0	-
コスト	(単位：千円)		平成31年度 決算	令和2年度 決算	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 予算		
	トータルコスト		5,103	3,104	3,286	2,254	4,240		
	事業費		2,355	2,746	2,931	1,894	4,096		
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0		
		県支出金	0	0	0	0	0		
		地方債	0	0	0	0	0		
		受益者負担	0	0	0	0	0		
		その他	0	0	0	0	0		
	一般財源		2,355	2,746	2,931	1,894	4,096		
	人件費合計		2,748	358	355	360	144		
正職員		726	358	355	360	144			
正職員以外		2,022	2,746	2,931	1,893	4,095			
(事業費集計済分)		(0)	(2,746)	(2,931)	(1,893)	(4,095)			
人員	正職員 (人)	0.10	0.05	0.05	0.05	0.02			
	正職員以外 (人)	1.00	1.00	1.00	1.00	2.00			
環境変化等	開始時の周辺環境								
	現状の周辺環境 毎年度一定数の案件があり、また、増加傾向にあることから、この事業による業務円滑化の効果は大きい。								
	今後の予想される周辺環境 案件の増加、内容の複雑化に対して、早期の適切な対応が必要となる。								
評価	評価項目		評価	評価の理由					
	受目的性	1. 市の関与（税金支出）	A	不当要求行為、行政対象処理困難案件への円滑な組織対応を行うための事業で妥当である。					
		2. 事務事業の目的（対象・意図）	A						
		3. 事務事業の目標（活動指標等）	A						
	有効性	4. 計画の実施状況	A	早期に適切に対応し、職員の負担軽減、業務の効率化を図ることができた。					
		5. 目標（活動指標等）の達成度	A						
		6. 上位施策への貢献度	A						
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み	B						
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み	B	他事業の警備員との統合配置、勤務体制の見直しを図る。					
		9. 類似事業との統合・代替の検討	A						
10. これまでの実施手段		B							
総合評価	A	効率的に行政安全対策を実施するため、警備員の配置、勤務体制の見直しを行う。							
改革案	今後の実施方向性	維持	他事業の警備員を統合配置し、勤務体制の見直しにより、効率的に事業を執行する。						
	成果方向性	成果維持							
	コスト方向性	コスト削減							
	改革効果（どのような効果が期待できるか）		雇用の一元化によるシフト調整等により、人件費を削減						

令和5年度 事務事業評価表 (令和4年度実績)

事務事業名		政治倫理審査会費			担当所属	法務コンプライアンス課			
基本情報	分野	9 都市経営	事業期間	～					
	基本施策	2 適正かつ透明な行政運営の推進	会計種別						
	推進施策	6 その他	実施計画		総合戦略				
事業概要	対象	市民							
	意図	政治倫理に関する調査及び審査を行い、政治倫理を守る一般予防として機能する。							
	成果	市政の担い手である市議会議員及び市長が政治倫理の確立と向上に努め、その権限又は地位の影響力を不正に行行使して、自己又は特定のものの利益を図ることのないよう必要な措置を講じることで、市政に対する市民の信頼に応えらるとともに、市民も市政に対する正しい認識と自覚を持ち、もって公正で開かれた民主的な市政の発展の実現が可能となる。							
	手段	政治倫理に関する調査及び審査を行う。							
指標	活動指標	指標名		単位	R2年度実績	R3年度実績	R4年度実績	R5年度見込	
		調査に対する結果報告率		目標値	%	100	100	100	100
				実績値	%	100	100	100	-
				目標達成度	%	100.0	100.0	100.0	-
コスト	(単位：千円)		平成31年度 決算	令和2年度 決算	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 予算		
	トータルコスト		871	1,442	1,481	1,453	1,579		
	事業費		72	83	131	84	138		
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0		
		県支出金	0	0	0	0	0		
		地方債	0	0	0	0	0		
		受益者負担	0	0	0	0	0		
		その他	0	0	0	0	0		
	一般財源		72	83	131	84	138		
	人件費合計		799	1,359	1,350	1,369	1,441		
正職員		799	1,359	1,350	1,369	1,441			
正職員以外		0	0	0	0	0			
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)			
人員	正職員 (人)	0.11	0.19	0.19	0.19	0.20			
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00			
環境変化等	開始時の周辺環境								
	周南市政治倫理条例は、平成17年10月から施行し、平成28年にはその全部を改正した。								
	現状の周辺環境								
環境変化等	今後の予想される周辺環境								
	市長及び市議会議員に対する政治倫理の確立と向上を求める声は今後ますます大きくなることが予想される。								
評価	評価項目		評価	評価の理由					
	妥当性	1. 市の関与（税金支出）	A	市政に対する政治倫理の確立に努める事業であり妥当である。					
		2. 事務事業の目的（対象・意図）	A						
		3. 事務事業の目標（活動指標等）	B						
	有効性	4. 計画の実施状況	A	政治倫理審査会事務、市長・議員の資産公開事務等を適切に行うことができた。					
		5. 目標（活動指標等）の達成度	A						
		6. 上位施策への貢献度	B						
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み	B						
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み	A	政治倫理に関する調査、審査を適正に実施した。					
		9. 類似事業との統合・代替の検討	A						
10. これまでの実施手段		A							
総合評価	A	政治倫理審査会は、周南市政治倫理条例により、市民からの政治倫理に関する調査請求に対する審査等を行うものであり、継続して実施する。							
改革案	今後の実施方向性	維持							
	成果方向性	成果維持							
	コスト方向性	コスト維持							
	改革効果（どのような効果が期待できるか）								

令和5年度 事務事業評価表 (令和4年度実績)

事務事業名		文書管理事務費			担当所属	法務コンプライアンス課			
基本情報	分野	9都市経営		事業期間	～				
	基本施策	2 適正かつ透明な行政運営の推進		会計種別					
	推進施策	2 適正な事務執行の推進		実施計画	総合戦略				
事業概要	対象	職員、市民							
	意図	統一的な文書管理により、市が保有する公文書、個人情報及び行政情報の適切な取扱いの確保を図る。							
	成果	公文書を適切に管理することで、市民の財産を守る。							
	手段	●文書の收受・発送、各出先機関への文書遞送 ●ファイリングシステムによる統一的な文書管理 ●全庁で収発する郵便物の仕分管理							
指標	活動指標	指標名		単位	R2年度実績	R3年度実績	R4年度実績	R5年度見込	
		庁内のペーパーレス化		目標値	万枚	886	870	870	870
				実績値	万枚	879.4	892.4	898.3	-
				目標達成度	%	99.3	102.6	103.3	-
コスト	(単位：千円)		平成31年度 決算	令和2年度 決算	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 予算		
	トータルコスト		86,649	51,094	48,643	55,172	61,514		
	事業費		65,156	43,653	41,256	41,409	48,687		
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0		
		県支出金	0	0	0	0	0		
		地方債	0	0	0	0	0		
		受益者負担	98	69	72	42	100		
		その他	330	202	157	153	213		
	一般財源		64,728	43,382	41,027	41,214	48,374		
	人件費合計		21,493	7,441	7,387	13,763	12,827		
正職員		21,493	7,441	7,387	13,763	12,827			
正職員以外 (事業費集計済分)		6,394 (6,394)	5,106 (5,106)	4,302 (4,302)	5,148 (5,148)	5,560 (5,560)			
人員	正職員 (人)	2.96	1.04	1.04	1.91	1.78			
	正職員以外 (人)	4.00	3.00	3.00	3.00	3.00			
環境変化等	開始時の周辺環境								
	現状の周辺環境 ファイリングシステムの導入により、統一的な文書管理が可能となった。								
	今後の予想される周辺環境								
評価	評価項目		評価	評価の理由					
	受目的性	1. 市の関与 (税金支出)		A	市の保有する公文書、個人情報、行政情報等の適正な取扱いの確保を図るもので妥当である。				
		2. 事務事業の目的 (対象・意図)		A					
		3. 事務事業の目標 (活動指標等)		B					
	有効性	4. 計画の実施状況		A	統一的な文書管理、公文書、個人情報、行政情報等の管理を適切に行った。				
		5. 目標 (活動指標等) の達成度		A					
		6. 上位施策への貢献度		A					
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み		B					
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み		B	職員への文書管理の意識啓発、ファイリングシステムの適正な運用等により、一層の事務の効率化を図っていく。				
		9. 類似事業との統合・代替の検討		A					
10. これまでの実施手段		B							
総合評価	A		行政事務は、「文書主義の原則」の下で執行するものであり、本事業は市政の根幹といえ、必要不可欠である。						
改革案	今後の実施方向性	維持	郵便発送業務のとりまとめにより、一層のコスト削減を図っていく。						
	成果方向性	成果維持							
	コスト方向性	コスト維持							
	改革効果 (どのような効果が期待できるか) 郵便発送業務の取りまとめによる郵便コストの削減、職員負担の軽減								

令和5年度 事務事業評価表 (令和4年度実績)

事務事業名		法務事務費			担当所属	法務コンプライアンス課		
基本情報	分野	9都市経営	事業期間	～				
	基本施策	2 適正かつ透明な行政運営の推進	会計種別					
	推進施策	2 適正な事務執行の推進	実施計画		総合戦略			
事業概要	対象	市民、職員						
	意図	公平公正な市政運営を確保するための体制を整備し、市政に対する市民の信頼を確保する。市民の暮らしに直結する議案、例規の審査を行うなど、市民から信頼される適正かつ公正な行政運営を推進する。						
	成果	法的な業務執行の推進及び職員のコンプライアンス意識の向上により、市民から信頼される適正かつ公平な行政運営が可能となる。						
	手段	●議案の作成及び例規の制定改廃の審査 ●コンプライアンス研修の実施及びコンプライアンス審査会の運営 ●顧問弁護士への相談 ●例規の整備等システムの運用						
指標	活動指標	指標名		単位	R2年度実績	R3年度実績	R4年度実績	R5年度見込
		通報に対する結果報告率	目標値	%	100	100	100	100
			実績値	%	100	100	100	-
			目標達成度	%	100.0	100.0	100.0	-
コスト	(単位：千円)		平成31年度 決算	令和2年度 決算	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 予算	
	トータルコスト		0	17,223	17,118	18,456	19,709	
	事業費		0	5,990	5,966	6,206	6,018	
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		地方債	0	0	0	0	0	
		受益者負担	0	0	0	0	0	
		その他	0	0	0	0	0	
	一般財源		0	5,990	5,966	6,206	6,018	
	人件費合計		0	11,233	11,152	12,250	13,691	
正職員		0	11,233	11,152	12,250	13,691		
正職員以外		0	0	0	0	0		
(事業費集計済)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)		
人員	正職員 (人)	0.00	1.57	1.57	1.70	1.90		
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		
環境変化等	開始時の周辺環境							
	組織改編により、令和2年度から法務コンプライアンス課を設置し、法的な業務執行の推進及び職員のコンプライアンス意識の向上により市民に信頼される行政運営を目指した。							
	現状の周辺環境							
評価	評価項目		評価	評価の理由				
	受目的性	1. 市の関与 (税金支出)	A	市民から信頼される適正かつ公平な行政運営を推進するための事業であり妥当である。				
		2. 事務事業の目的 (対象・意図)	A					
3. 事務事業の目標 (活動指標等)		A						
有効性	4. 計画の実施状況	A	法的な業務執行の推進及び職員のコンプライアンス意識向上を図ることができた。					
	5. 目標 (活動指標等) の達成度	A						
	6. 上位施策への貢献度	A						
	7. 事業成果の向上へのさらなる取組み	A						
効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み	A	適正な事務執行に寄与した。					
	9. 類似事業との統合・代替の検討	A						
	10. これまでの実施手段	A						
総合評価	A	市民に信頼される公平公正な行政運営を目指す上で欠かせない事業である。引き続き、業務の適切な執行、職員のコンプライアンス意識の向上を図る。						
改革案	今後の実施方向性	維持						
	成果方向性	成果維持						
	コスト方向性	コスト維持						
	改革効果 (どのような効果が期待できるか)							